

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200621		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぼの家GH柏		
所在地	〒277-0005 千葉県柏市柏1007-1		
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.sompocare.com/service/home/grouphome/Z000349/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションに力を入れており、スタッフが定期的に企画したものを定期的 に開催している。 ・看取り介護を行っている。また、24時間医療機関と連携が取れる体制が整っている。 ・スタッフの残業管理が行えており、月平均10時間以内となっている。 ・未経験や経験の浅いスタッフでも、意見や意思を自由に発言できる職場環境である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は「人間尊重」の理念を掲げ、利用者の自律を支援し、自らできることを尊重する姿勢を大切にしている。利用者の選択を重視し、個々のニーズと状況に応じた「カスタムメイドのケア」を実践している。施設は日本家屋の平屋建てで、旅館を思わせる落ち着いた造りとなっており、引き戸を採用して車いすや歩行器の利用者も安心して移動できる設計である。また、ICT技術を活用し、利用者データを24時間対応の契約医療機関と共有し、訪問診療時の的確な体調管理につなげている。さらに、令和7年11月頃には行政と連携して「眠りスキャン」を導入し、体調管理の精度を一層高める予定である。毎月敷地内で行われる「こども食堂」や夏祭りなどの行事は、利用者と近隣住民の交流の機会となり、地域連携や非常時の協力体制にも寄与している。チームとしても協力体制を重視し、職員間の連携強化を通じてサービスの質を高め、利用者への一貫したケアを目指している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念について、研修を通して全職員に周知している。 折に触れて理念について意識を共有している。	当該事業所では、理念に掲げる「人間の尊重」を基本に、施設長が日頃から接遇の重要性を職員に強調し、具体的な場面でも一緒になって実践している。職員一人ひとりには利用者に対して俳優のように自らを律して理想の介護職として、常に笑顔と丁寧な対応を心がけている。役職にとらわれず全職員がチームとして、より良い利用者サービスの提供を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に参加し、地域の行事や暮らしにつながりを作っている。子ども食堂として、地域の親子様に夏祭りや焼き芋会を解放。入居者の皆様と交流を持っていただいている。	当該事業所では、地域とのつながりを大切にし、職員の発案により毎月子ども食堂を施設敷地内で開催している。近隣の子どものみだけでなく誰でも参加でき、利用者も共に食事やゲームを楽しみ、世代を超えた交流の場となっている。また、町内会の一員として、施設に備蓄する非常食や避難場所の提供を申し出るなど、災害時にも地域に貢献できる体制づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子ども食堂、イベントの開放を行っている。 今後は、地域のゴミ拾いやお祭りに参加させていただきたく、働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リアル開催を行っている。ホームの状況報告は随時行っている。家族様の意見やご要望をお伺いし、入居者様の生活の向上やサービスの向上を目指している。	運営推進会議は二か月ごとに開催しており、地域包括支援センター、家族代表、利用者、管理者、ケアマネジャーが参加してリアル形式で実施されている。開催前には家族にアンケートを行い、寄せられた意見や要望を会議内で検討している。会議では、高齢化に伴う視力低下や白内障などへの対応についても意見交換が行われ、外部評価の結果報告も共有されるなど、サービスの質向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	柏市法人指導課と連絡を取り合い、困ったことは相談させて頂いている。	柏市法人指導課とは、日頃から緊密に連携を取り、相談事にも迅速に対応してもらっている。感染症対策として、検査キットや体内酸素濃度を測定する機器の提供を受けるなど、行政からの支援を活かした取り組みを行っている。困りごとや気がかりなことについても、随時連絡・相談ができる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修内容に「身体拘束防止」の内容及び、研修を通じて学んでいる。 また、身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。	身体拘束委員会において定期的に研修を実施し、全職員が身体拘束廃止に対する理解を深めている。本部からは学習用動画が提供され、職員間で振り返り学習を行う体制が整っている。日々の業務の中では、スピーチロックを防ぐために、利用者には常に敬語で丁寧に接し、なれ合いにならないよう意識して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修で「虐待」と「虐待防止」について学んでいる。虐待を見逃さない為の「通報窓口」が本部に設置されており、職員全員が常に通報窓口の連絡先を携帯している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、本部からアンケートがお客様(家族)に送られており、意見や要望を伺う機会が設けられている。 返信が管理者宛に届き、ファイリングして誰もが確認できる。	2か月ごとの運営推進会議の前に実施するアンケート調査に加え、本部からも直接アンケートが行われており、家族が意見や要望を出しやすい仕組みが整っている。施設長をはじめ全職員が接遇を重視しているため、日頃から家族との意思疎通が円滑である。寄せられた意見や要望は職員間で共有され、サービスの改善や利用者満足の向上に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行えている。	毎月開催される全体会議では、全職員が参加し意見を出し合い、話し合いの内容は記録されている。利用者一人ひとりのケア内容についても情報共有と支援方法の検討が行われている。施設長との個人面談は年2回実施され、日頃から円滑なコミュニケーションが図られており、職員が長く勤続できる環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「事業所内ケア研修」として、定期的に職員研修がWebで受ける仕組みが社内にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡協議会、多職種連携の会に参加させていただいている。積極的に参加し、交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は家族様とこまめに連絡を取り合い、本人様のお困りごとだけでなく、家族様に寄り添った対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行えている。家族も一緒に本人様を支援する一員として、同じ方向性で本人を支えていけるようコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行えている。面会受付、手紙の代理投函、電話取次を行っている。昔馴染みの友人の来訪などもある。	利用者がこれまで築いてきた人間関係を大切にしており、友人や近隣の方の来訪も受け入れている。家族との旅行では、九州や北海道など遠方へ出かける利用者もいる。毎月の訪問理美容サービスを継続して利用し、外出や交流の機会を通じて馴染みの人や場との関係維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去での退去が多いため、その後の連絡はしていないが、同グループ内での転居については後フォローも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などと一緒にケアプランに本人様の思いや意向を記載、それに基づいてプランにも反映し、検討を繰り返している。	利用者の意向を尊重し、「本人のできることを最大限受け止める姿勢を徹底している。洗濯物を畳む、洗い物をするなどの役割を任せ、散歩の希望には同行するなど、画一的にならない個別支援が実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力行っている。家族様の都合で遠方から来られた場合など、難しいこともあるが生活歴は大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カスタムメイドケアを目指し、個別のプランを立案し、実践している。	記録システムの本格稼働により、日々の体形や表情、言葉の変化をケアプランに反映する体制が整備されている。さらに11月には「眠りスキャン」の導入が予定されており、遠隔で動きを把握することで、個別性の高い支援の実現を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	4月から記録システムが本格的に移動する。全職員で情報を共有し、カンファレンスで見直すことをサイクルで行っていく予定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提供できるサービス(外部も含む)を常に模索している。実費はかかるが個別性のあるサービスの提供(自費訪問介護、訪問看護)も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	改善中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行えている。	入居前からのかかりつけ医による訪問診療が望ましいとされるが、現状では24時間対応可能な提携医を選択する家族が多い。診療前には健康状態のデータを主治医に送付し、訪問看護師が診療後の情報をもとに継続的な健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない施設となるが、必要に応じて訪問看護を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期においては早い段階から主治医と共有し、家族様、関係者を交えてどのように最期を迎えるかの話し合いを慎重に、定期的に行っている。	入居時に重度化や終末期に関する説明を家族に行っている。食事量の減少や体重の低下など利用者に変化が見られた際には、家族への連絡と医師の往診による相談を行い、医師から家族への説明も実施される。重度化が進行した場合にはカンファレンスを通じて情報共有を図り、チームとして一体的に支援にあたる体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を頂く訓練は行えていないが、研修を通して急変や感染症対応について学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、本部主体でマニュアルの用意がある。	BCPIに基づき、6月に災害対策訓練を実施し、備蓄品の確認やそれを使った食事づくりも行った。12月にも同様の訓練を予定している。4月には避難訓練を実施し、1月には消防署立会いの訓練を計画している。災害時には施設を近隣住民の避難場所として提供する方針で、町会への周知を図っており、食料品の備蓄とそんぽケアとしての応援体制も整備されている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間尊重の理念の元、人格やその方を尊重し、接遇面も重視している。	利用者のプライバシー確保に対しては、ケアの在り方を重視し、「自分が嫌なことは他人にしない」という姿勢を徹底している。また、「自分でできることは自分でしてもらう」を基本とし、選択権を保障することで、自ら悩み選ぶ過程がその人の尊重につながる支援に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は大切にしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みのお洋服やおしゃれも、昔からお好きだったおしゃれを楽しんでいただける支援を心がけている。一律に、ケアのしやすい服(介護者目線)とならないように心がけている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部行えている。準備については、衛生上の問題から職員のみが行っている。片づけは、お手伝いいただける方にはご協力頂いている。	食事支援においては、利用者がチームの一員としてお手伝いを通じて社会参加することを重視している。月1回開催することも食堂には利用者も参加し、食後にはこども達とゲームを楽しむ姿も見られ、地域との交流の場となっている。また、チラシ等を見て食べたいものを募り、買い出し後に皆で食べる機会も設けている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科にも協力していただきながら行えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の能力に合わせ、トイレでの排泄を心掛けている。	排泄支援においては、立位が可能な利用者にはトイレでの排泄を基本とし、人としての尊厳を守ることを重視した支援に努めている。スムーズな排泄を促すため、医師と相談しながら水分摂取を促し、立つ・座る機会を多く持つよう体を動かす支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理のない入浴へのお誘いは心がけているが、業務や人員不足のために思ったような支援が難しいこともある。	入浴支援においては、入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、職員が拒否の要因を理解した上で、楽しめるような声掛けに配慮している。他施設からの移動者が長期間入浴を避けていたが、丁寧な声掛けによりスムーズな入浴につながった事例もある。浴槽内と洗い場には滑り止めマットを敷き、安全面にも工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になるタイミングで、様子の変化・特に副作用の出現については気を配るよう指示。様子の変化を記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アクティビティとしての「散歩」に力を入れている。ふるさと公園も近く、気候の良いときはお花見や紅葉を楽しみにしている。	当該事業所では、日常的な外出支援としての散歩を、季節感や開放感を味わい、外の景色を通じて世の中の動きを感じるアクティビティとして位置づけている。花見の時期には、車いすの利用者も含めて近隣のふるさと公園まで出かけるなど、季節を感じる機会づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員による金銭の使用援助は禁止されている。 ※声掛けは行えるが、財布から代わりに支払うなどは禁止されている。本人様より要望があった場合も同様である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や便箋の代理購入、代理投函、電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行えている。	当該事業所は、築20年以上の建物であることを踏まえ、清掃に徹底衛生維持に細心の注意を払っている。各ユニットのリビングは、自分たちの空間として手作りの品を飾り、居心地の良さを工夫している。利用者はテレビ鑑賞や新聞、かるた取りなど思い思いの過ごし方で一日の大半を穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行えている。	事業所では、入居時に新しい物を揃えるのではなく、見慣れた私物を持ち込んでもらうことで、他人の部屋と思われないよう配慮している。かつては木製の表札を掲げていたが現在は行っておらず、正月飾りなどを入り口に掛けることで自室としての認識を持つ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行えている。		